

2022年度 シュタイナー学園学校評価

シュタイナー学園初等部・中等部・高等部では、2022年度の教育活動につきまして、以下のように評価いたしました。

(1) 学校評価目標	教職員による自己評価	学校関係者評価：保護者評価（抜粋）
<p>1.全体目標について</p> <p>創造的な活動や実体験によって培われた感覚を通して真理を求め、自ら考え、世界と生き生きとした関係を築く。</p>	<p>【教職員による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相変学校全体での交流や全体行事の回数は例年よりは少なくなったが、初等部のクラスが 高等部へ行って劇を見せたり、高等部が初中等部へきて下の学年と遊んだり、少人数レベルでの交流を企画して、親睦を絶やさないようにした。 ・初中等部運動会で、高等部の自主グループ生徒が参加し、自発的に会をリードし、下級生を気遣いながら運営するなど、自ら考えて動くことができた。 ・12年生が12年間の集大成として卒業プロジェクトを発表し、7年生から上の学年の生徒たちもその発表を聞き主体的に質問していた。 <p>【初中高等部校長による総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍によるオンライン授業や行事の制限が緩和されてきて、創造的な活動や実体験ができるようになった。交換留学も再開でき、新たな国々（フィリピン、南アフリカなど）からの生徒を迎えるなど、世界との生き生きとした関係を築くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12年生の発表を見ると、彼らが世界と関わろうとしている姿があり、自分の力を発揮しようとしていた。先生方が、本当に多くの気持ちや苦勞を注いでくださっていることがよく分かった。 ・コロナ禍で様々な行事に制限があったが、学期祭で久しぶりに多くの保護者たちも集まることができ、子どもたちの成長を感じられたことは本当によかった。いろいろと対策を考えてくださってありがとうございます。
<p>2 初中等部目標について</p> <p>一人ひとりを見守りながら、手足を良く働かせ、感覚や意志を育てる環境を用意する。真善美を授業にもたらし、心を育てる。それらを思考の土台として、自信を持って世界に向かっていけるように働きかける。</p>	<p>【教職員による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年会をもち、専科教員との振り返りをする中で、1人ひとりの児童について伸びているところや課題を共有することができた。コロナの影響も少しずつ減り、本来の手足を使った教育芸術が少しずつ戻ってきた。他学年同士の交流もより活発に持てた。クラスの子どもの状況を丁寧に共有し、教員お互いが協力し合い取り組む姿が、子どもの成長を助けた。 <p>【初中等部校長総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続く中、児童生徒が罹患したり、家族の濃厚接触者のために欠席が多く出たり、学級閉鎖せざるをえないことや教員が罹患して休まざるをえないこともあったが、日々の学習はできうる限り、本来の形で行えるように取り組んだ。また、校外学習については貴重な機会であるので、感染対策などの工夫をして実施した。本校が目指す教育活動をできる限り行うよう努力し、その成果も少しずつ表れてきている。 ・担任、専科教員、支援に携わる教員がそれぞれのクラスの状況を共有し、一人一人の児童についてきめ細かく見るべく情報共有を行い、彼らの課題に対して働きかけようとしてきた。一朝一夕に成果の出ることではないので、保護者の協力も得ながら、辛抱強く取り組みを続けている。 <p>それぞれの学年が、その学年の課題に向き合い成長する姿を見ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが小学生の段階で、子育てと性教育を一体化したものであるとして受け取っていることが有り難かったです。低学年の時、クラスでの誕生会に招かれて、生まれた時の親の気持ちを、クラスの子どもたちに話したこと、性教育が地続きになっていると感じています。養護の先生や担任の先生の意識が柔らかく、連続的に成長を促していることが伝わってきました。 ・先生方によるクリスマス劇をととても楽しんでいました。お忙しいはずの先生方がいつ準備なさっているのか不安になりつつも、子どもたちに多くのことを捧げくださっていることを感謝しています。先生方が取り組んでいるからこそ、子どもたちの劇にもそれが反映されていると感じました。

<p>3 高等部目標について</p> <p>自分の役目を認識し責任を持って行動する。同時に周囲にも目を向け、自分が出来ることを積極的に探し、他者と共働していく力を養う。</p>	<p>【教職員による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス活動、委員会活動、クラブ活動、体育祭や文化祭は縦割りの活動が主体で、学年間の交流ができています。実習、演劇、卒プロ、日々の清掃などを通して、上記の目標へ向かって少しずつ前進していると感じる。まだまだ理想には程遠いが、一歩でも前に進もうとする姿勢を評価したい。 ・委員会活動では昨年度の振り返りが活かしきれしていない。 ・生徒会防災委員会では、帰宅困難時の食料問題と個人の避難袋の検討を行い、備蓄の見直しなどを生徒主体で行った。ただし、生徒全体への周知がうまくいっていない。生徒がお互いに防災意識を高めていくという今後の課題が明確になり、来年度の委員会へと引き継がれることになった。 <p>【高等部校長総評】</p> <p>1年を振り返ると、コロナ禍の緩和とともに生徒たちが、よりリラックスして学ぶことができるようになったと言える。高等部のカリキュラム、中でも実習の多様さと自ら考えることを促す取り組みにより、生徒たちはさまざまな分野を探究し、知識を広げることができた。教員不足と高齢化は引き続き問題ではあるが、その分多くの教員が経験豊かで、それぞれの分野の専門知識を持っている。教員たちは生徒の人間形成と知性の充実に真の情熱を示し、献身的に授業を行っていた。教室でのディスカッションなどには、さらに積極的かつ批判的な思考が望まれるものの、多くの生徒が生き生きと学んでいる。家庭環境、人間関係、学習や発達など、困難を感じる生徒には、養護教諭とスクールカウンセラーがきめ細かく対応した。課外活動は小規模ながら多彩で、生徒たちの個性を生かし、楽しみながら心身を成長させることができた。この部分では、保護者の方々の協力を得ることもでき、コロナ禍で閉塞感のあった学園コミュニティを繋ぐことができた。進路に関しては、現役での進学を希望する生徒が年々増え、12年生のカリキュラムの充実ぶりととのバランスを取ることに難しさが見えてきている。受験と授業や3大プロジェクトとの両立に、圧倒されるように感じる生徒もいたようだ。また、オンライン授業での教育の継続を望み、学校を去る生徒もあり、コロナ禍の傷跡はまだ残っている。全体としては落ち着きを取り戻して教育に向かい、生徒たちにしっかりと成長の機会を提供することができたと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動が少しずつ充実していたり、地域住民との関わりも増えてきていたりして、自主性を発揮できる機会が年々増えているように思う。 ・学園祭で、責任をもった活動をできていたと感じている。学園祭以外でも、生徒が自己決定できる機会がもっと増えればと思う。
--	---	--

(2) 学年評価目標	教職員による自己評価	学校関係者評価：保護者評価（抜粋）
<p>初等部</p>		
<p>1年 自然との関りや祝祭を通して四季の移り変わりを感じ、しっかりと自分の足で歩いていく。友達と共に学びへの喜びを感じる。</p>	<p>よもぎを摘んでお団子作りやドングリを拾いに行ったりと、自然の中で遊ぶことを通して四季を感じた。歌や笛をしたり、言葉を唱えたりと共に呼吸を合わせることをとても喜んでいるように感じた。</p>	
<p>2年 子ども一人ひとりを多面的に見ていき、温かい見守りの中ですくすく育っていけるよう導く。</p>	<p>運動遊びや手の仕事、中国語などにサポート教員がつくことで、より個別に働きかけた授業ができた。また、いろいろな教員による児童の見守りがあり、担任自身も安心してクラス作りができた。</p>	<p>子どもが家に帰ってくると、普段、クラスで唱えている詩や言葉が口を突いて無意識に出てきています。日本の言葉のもつ力や文化が、子どもたちの体に喜びと共に染みこんでいることが分かって、嬉しい気持ちになります。</p>

<p>3年 客観的な視点が芽生えるこの時期に、子ども達の変化や課題を多くの教員と共に見極め、あたたかい目で見守りながら自信をもって世界への一歩が踏み出せるように支える。</p>	<p>ヤマタノオロチ退治劇や12回の米作り作業、林業体験に喜びを持って向かい、人前での発表や作業の結果とれたお米を仲間や家族と分かち合い、大きな自信につながった。子ども達の成長について教員たちで何度も確認することができた。</p>	
<p>4年 子どもたちが地に足を降ろして立ち、世界へむかう意志を育んでいく。</p>	<p>家作りを行い、土台から柱立て、屋根まで自分たちの力で完成させ、この地上で仕事を行っていく力を身につけた。動物学では、動物と人間に目を向け、郷土学では学校のある藤野地域の地理と歴史について実際に歩いての地図作りや地域の人からの話を聞くことを通して具体的に学んだ。</p>	
<p>5年 自らの足で踏み出し、体験し、感じながら、広い世界と深い真実につながっていくよう、導く。</p>	<p>4年生の郷土学からのつながりで、校外学習を通し、地域から徐々に意識を広げ、地図上や教室の中でも、自らその地域の空間（地理）と時間（歴史）のイメージを創り上げながら世界への興味を追求していけるようになっている。その感覚が、少数や分数の計算の仕組みを根気よく考え、友達と話し合い、納得するまで教師に質問する力にも育まれているように感じる。</p>	<p>節分の行事が、外で行われたことが、とても美しく感じられました。</p>
<p>6年 自分の意志で取り組み挑戦したいという子どもの中で目覚めていく力を、外の世界の現象や体験によって、生き生きと発揮できるように導く。それぞれに生まれた個性や感性を豊かに育てていく。</p>	<p>物理学（光・音・電気・磁力）で、様々な現象を通して、観察、考察していき、驚きと発見が子ども達の思考を生き生きさせた。また、因果関係にも少しずつ目覚めていった。幾何学では、複雑で緻密な形をより美しく描くために、思考しながら美しい世界に向かおうとする意欲と感性がそれぞれに生まれた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のシュタイナー学校と合同で、オリンピックの大会を行って、それぞれの子どもが自分の力を、順位をつけなくても発揮でき、子ども同士が気持ちの良い交流ができる場を作ってくださいることは、本当に貴重なことだと思いました。
<p>中等部</p>		
<p>7年 外に目を向け始めた子ども達を、優しく後押ししながら導き、自信を持って世界へ出ていく土台を培う。</p>	<p>ルネッサンス・大航海時代の学びの後に、カヌー・洞窟体験で自分では無理と思うようなこともチャレンジすることが出来、自分たちの可能性を広げることが出来た。狂言発表では何百人もの観客の前で立派に発表した。世界地理のグループ学習では興味のある国を仲間と協力して調べ、興味深い発表をしていた。世界に興味を広げたことから、英語の学びへも積極的になってきた。初めての自由研究ではそれぞれが個性的なテーマを選び、クラスメートと保護者に発表した。お互いの良さを認め合うきっかけとなり、クラスの雰囲気明るくなった。学園祭の出店やお楽しみ会へ向けてクラスの話し合いも活発になり、クラス全体で良い物を生み出す土台を作ることが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で起きている戦争や災害に気持ちを向けている子どもに、先生たちが真摯に向き合ってください、授業に組み込んでくれたり、寄付という活動へ意識を向けてくれたので。
<p>8年 ・創造的な活動を通し、子どもが生き生きと学び成長できる教育の場をつくる。 ・驚き、喜びが、考える力へとつながる学びを通して、自律的に行動できる力を育んでいく。</p>	<p>ビバーク体験とそれに伴う事前準備によく取り組んだ。また、8年クラス劇の練習、および各係の仕事も前向きに、かつ放課後の居残りをするなど自主的に行なった。劇の発表では、一人ひとり生徒が存分に力を発揮し、上演の成功によって自信を持った様子が見られた。</p>	

<p>9年 世界への視野を広げ、この時期に活発になる思考活動を伸ばす。周囲のできごとを自分ごととして考えて判断し、行動に結びつけていける自主性を培う。過去に生きた人々の成した事柄を学び、自らの理想と目標を見出せるよう促す。</p>	<p>吉野校舎に来て、一回り成長した。チャイムがなく、自分で時間を気にして授業の始まりに備えるなど、自由と責任のバランス感覚を身につけつつある。提出物はきちんと出し、授業前には予習をするなど、学びに向かう力もある。農業実習を通じて、手を汚しながら体を使って働くことの価値と喜び、クラスの仲間との結びつきを感じることができた。「周囲のできごとを自分ごととして考え、行動に結びつけていける自主性を培う」という目標に近づけた。</p>	
<p>高等部</p>		
<p>10年 物事の起源を見つめ、人間や社会がどのような変遷を経て今に繋がっているかを考え、学びを深める。実習では他者と協働し、物を作り上げることの良さを体験する。</p>	<p>職業実習では、中小の工場、工房、工務店において個々が様々な種類の物づくりを経験し、効率の良さ、すべての製品の完成度、技術的な精度の高さを実現するための集中力の大切さを体験した。教科の学びで様々な起源から、どのように発展してきたかを包括的に学んでいる。</p>	
<p>11年 想像力と責任感、そして社会的な分野（福祉実習）における状況に合った適切な行為への挑戦。新たな社会経験に従事し、仲間としての人間と向き合う中で、自分の利益ではなく他者に必要な物事を行う。</p>	<p>福祉実習や交換留学を通し、社会を構成する多様な人々と関わりを持った。福祉施設では助けを必要としている人との関わりの中で、相手が本当に求めていることは何で自分には何ができるのか、といったことを考えて行動することを学んだ。11年生として、委員会や部活動などの様々な活動の中で、部長や委員長といった責任ある役割に就くことで、主体的に活動し、全体をまとめる役割を担った。</p>	<p>・学園祭で、責任をもった活動をできていたと感じている。学園祭以外でも、生徒が自己決定できる機会がもっと増えればと思う。</p>
<p>12年 環境への思いやり、他者への思いやりを持ち、社会に創造的・主体的に働きかける姿勢と技能を身につける。卒業演劇、卒業プロジェクト、卒業オイリュトミーなどは発表それ自体と同様にそこに向かうまでの過程と発表後の振り返りを大切にす。</p>	<p>上記のことは、指摘されればその通りだと感じる感受性を持っているし、働きかければそうしようとする姿勢があるが、まだまだ承認欲求の下で、あるいは結果を残すために行動することが多く、他からの評価が期待されない場で主体的に動くこと、結果を気にせず今を生き切ることとはできていない（大人でも難しいことではあるが）。ややもすると、易きに流れる傾向があるので、そうならないように継続指導が必要。</p>	<p>高校生たちが自分の個性を発揮しながら、独自のプロジェクトを堂々と発表する姿勢に感動しました。印象的だったのは、多種多様なテーマに取り組んでいる高校生たちの姿と情熱でした。彼らを選んだテーマは、自分たちの生活や学校のあり方について深く考え、大人たちにも新たな視点を気付かせるものだったと思います。彼らのプレゼンテーションは、教育の範疇を超えて、社会的な意義を示すもののように思えました。</p>

(3) 専科評価目標	教職員による自己評価	学校関係者評価：保護者評価（抜粋）
国語 様々な文学作品を読み味わうことにより自らの生き方を模索し、自分の考えを自分の言葉で明確に伝えることができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文学作品を読み味わうことを通し、多様な文化や価値観を受け入れる素直さ、柔軟性が育っている。 ・感じたこと、考えたことを、ありのまま伝えようという姿勢がみられるが、論拠を示し自身の意見を述べる点には課題が残る。 ・学んだことを実生活に生かすことや日々の在り方を見直すこと、将来へとつなげていく力は弱い。 	
数学 数学の学びを通して、論理的思考の力を育て、自然界とつながる視点を持ち、社会生活における数学の活用方法の理解を助ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年のテーマに従って、作業や実験などの具体的な活動を通し、法則性を見出すことに繋がられた。そのプロセスの中で、論理的思考を育てるような議論やディスカッションをグループで行えた。また、単元の学びに関する記事やデータなどを通して、世界情勢や気候、人口の推移など、身の回りの出来事に興味・関心が向かうような授業を組み立て、生徒の反応も大きかった。 	
社会 多様な価値観を理解して受け入れつつ、自分の立場を明確にして責任ある行動をとれるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を理解して受け入れる柔軟な感性が育っている。一方で、自分の立場を明確にすることができる生徒はまだ少なく、それゆえに真の責任の主体にはなりきれていない生徒が多い。ただし、それを理想として日々学んでいるということは言葉のレベルでは伝わっていると感じるので、卒業後の、21歳以降の人生から学んでいく素地は養えていると思う。 	
理科 自然の現象を観察する力を養い、興味・関心を高め、その中から仮説をつくり、その検証を通して、自ら「発見」するための方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部では、授業内容の実験や対象物の観察をできる限り取り組んでいるが、設備不足や時間の関係で実際に取り組めない実験や、観察できない現象も多く、資料の提示のみになることも少なくないため、授業の進め方にさらなる工夫が必要である。さらに「数値化」や「比較実験」によってさらなる客観化の練習を行っていきたい。 ・中等部では、設備・道具も含めて充実してきており、さまざまな実際の体験がしやすくなっている。観察は、初等部5年生ごろから始めているが、現象の観察力は、「言語化」をすることで高まっていくため、絵やスケッチによる記録に加え、言葉による記録をはさらに徹底していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を通じて自然の不思議さを理解し、その興奮を家庭で話すことが増えた。科学の面白さを理解し、自分から学びたいという意欲を育てているように思えたので。私自身も子どもと一緒に学び直したい気持ちになります。
絵画 美しいものを作り出すことに意欲を持ち、喜びを持って表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年から学んでいる生徒はこれまでの積み重ねによる美しいものを認知し、創造したいという意識が感じられる ・美しいものを作りたい意欲はあるが、もっとより良いものを作りたいという貪欲さに不足している。 	
工芸 粘土や木という素材を、自らの手で美しい世界を作り出せる体験をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・7年生の木彫では、美しい面と形を彫りあげることができた。技術と形への感覚の育ちが見えた。 ・5年生は、粘土や木という素材を自分たちの手や新たに導入されたハンドナイフなどの道具を使って、美しいものを作りだそうと積極的に取り組んだ。自分たちで作り上げることへの喜びを持ち、クラスメイトを手助けすることができた。 ・6年生は、自ら群れる動物を選び、調べ発表し、その姿を粘土で形作った。一人一人がその動物の生態を知り、その姿をイメージしながら制作に取り組んだ。オリジナルフォルメンを考え、レリーフを制作した。 ・8年生は8年劇に向けて、大道具・小道具製作のためのアイデアを積極的に出し、主体的に互いに協力し合って制作を進めた。背景画も担当係の方向性を尊重しつつ、他の係の者も総出で力を合わせて仕上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち帰ってくる作品を見ると、子どもが充実した時間を過ごしていたということを感じられたから。

<p>手の仕事室 自分の手を通して、使うものを作り出すことに喜びを持って向かう。そのことを通して、世界とつながることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2, 3年生では、棒針やかぎ針の導入を行い、それらを使って身の回りで使う物を喜びを持って編んだ。 ・4年生以上も各学年のカリキュラムに沿って、製作に励んだ。学年が上がるにつれて、課題も変化するが、子どもたちは新しい課題に対して興味を持って向き合っていた。 ・どの学年もなかなか課題に向き合えなかったり、進まなかったりする子どもへのケアが今後必要である。 	
<p>美術 自分と世界という二つの極の間に生み出される「美」を美術史や絵画、彫塑を通して体験し、考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の美術は、鍛金、石彫、彫塑、絵画は多様性があり、各科目に専門性のある講師を迎え、充実した内容となった。鍛金や彫塑における凹面凸面の面の制作を通して、二つの相対する極でありながらもお互いがお互いを構成する要素となっていることを体験を通して学ぶことができた。鍛金は金属学、彫塑は人間学の授業との関係性をもって行われている。 ・美術史：絵画や彫刻、建築として現れる人間の意識の発達を、作品の観察や芸術家の人生や目指したものなどを学ぶことで考えていくことができている。 	
<p>音楽 喜びをもって歌い奏でる感性を育む。静けさを感じる力、真に聴く力を磨く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ともその年齢に相応しい課題に沿って歌うことを味わった。楽器も、その学年の課題である器楽に積極的に取り組み味わう姿勢が見受けられた。1年生から7年生は、器楽として特に笛に取り組んだが、美しい音色であるかどうか心に注ぎながら学んだ。主に響きの楽器を通して、静けさを聴く体験を重ねた。 	
<p>園芸 野菜や花などを育て生きものを育てる愛情を育む。また、周りの環境に有機的に関わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜、ハーブ、花を大きく育てることにより、世話をしながら成長過程を見て、植物への愛情を育んでいった。そして栽培技術も徐々に習得していき自分の技術力に自信もつけていった。 ・学園から少し離れたところに地域の方から貸していただいている畑がある。栽培環境を整え、少しずつ、栽培できるように改良していつている。 	
<p>体育 運動・スポーツを通して、他者と協同することや自己や他者の課題を発見し、そこに向かう過程を楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では遊びを通して「皆と楽しく遊ぶためにはどうしたらよいか」を考えながら身体を動かした。 ・個人技術の向上とともに、チームで作戦をたて、振り返ることができた。過程を楽しむことはできたが勝敗を気にしている。 ・高等部では、クラス単位での授業を通して、様々な能力を持った者同士とともにスポーツを楽しむことを考え実践した。力任せに体を動かすだけでなく、状況を見て力を加減したり、仲間をサポートすることに専念するなどの工夫が見られた。 	
<p>外国語 言葉のリズムや表現を味わい、コミュニケーションする面白さや外国語とその国固有の文化的な豊かさを感じつつ学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年から歌やリズム遊びに慣れ親しみ、声に出したり、歌ったりして、外国語の音を味わい、中学年では語彙を増やしつつ、文法や物語に親しみ、高等部では、4技能を伸ばしつつ、英語の歴史や英語詩や英文学の学びを通して、文化的な豊かさを感じつつ学んでいる。 ・コロナ禍により中断していた海外のシュタイナー学校との交換留学が復活できたことはとてもよかった。言葉に対するモチベーションが上がり、外に踏み出す力を身につけて帰ってくることができた。 	